

誰もが安心して暮らせる 蕨市をめざして

2025年9月議会報告

9月定例会市議会(9月3日~30日)の内容と日本共産党市議団の政策・活動を中心にお伝えします。なお、詳細については市議団のホームページでも紹介しています。こちらもぜひご覧ください。 [ご意見・ご相談はこちらからどうぞ →](#)



日本共産党蕨市議会議員団

左から、武下涼、鈴木智、やまわき紀子の各議員
(2025年8月 市役所5階 市議会議場にて)

2024年度決算など すべての 市長提出議案を可決・認定

9月議会では、23件の市長提出議案をすべて可決・認定しました。一方、市民が提出した「核兵器禁止条約に参加を求める意見書の提出を求める陳情」には、日本共産党など6人が賛成しましたが、わらび未来の会(保守系)、公明党、維新の会が反対。賛成少数で不採択となりました。

くらしを支えるあったか市政

一般会計の決算額は、歳入で約326億円、歳出で約305億円となりました。歳入では前年度比で地方交付税や市税などが増、繰入金や市債などが減で総額1.1%の減でした。今議会では、物価高騰による市民生活や地域経済、市政運営等への影響についても議論し、市議団として、くらしや営業を守る取り組みを要望しました。

また、この年は高齢者補聴器購入費助成制度や高校卒業までの医療費完全無償化、学校給食費の2人目以降無料化などがスタートし、学校体育館のエアコン設置が完了するなど、市民の要望の実現で大きな成果がありました。

戦後80年・平和都市宣言40周年記念行事など 頼高英雄市長の報告

9月議会で頼高英雄市長は、蕨戸田衛生センター火災にかかる対応、母子健康手帳アプリの導入、民間留守家庭児童指導室の開設への取り組みなど9項目を報告。8月に行われた戦後80年・蕨市平和都市宣言40周年記念行事については「戦争の悲惨さ、平和の大切さを胸に刻み、蕨市平和都市宣言の意義を再確認するもの」と述べ「世界の恒久平和と核兵器のすみやかな廃絶に力をつくす」などの思いを表明しました。

日本も核兵器禁止条約に参加を! 日本共産党市議団の見解

陳情は残念ながら不採択となりましたが、日本共産党市議団は賛成討論を行いました。その内容を要約して紹介します。

核兵器禁止条約は被爆者などが世界の国々を動かした歴史的な成果であり、核兵器廃絶は人類共通の願い。核抑止力論は、核兵器の使用を前提として大きな矛盾がある。さらに紛争の中で核保有国が核兵器使用の可能性に言及している状況も重大。核兵器禁止条約の署名・批准・参加国は99か国に広がっている。被爆80年にあたり、日本政府が核兵器禁止条約に参加し、唯一の戦争被爆国として役割を果たすことを痛切に願い、本陳情に賛成する。



蕨戸田衛生センター火災 一日も早い復旧と再発防止を

7月12日に発生した衛生センター粗大ごみ処理施設の火災では、ごみ収集の一時停止など甚大な影響を及ぼしました。原因は不明ですがリチウムイオン電池による可能性が指摘されています。日本共産党市議団は、衛生センター議会では再発防止策などの課題を、市議会ではごみ減量化や廃棄物の分別などの課題を、それぞれ質問しました。